

「当社の安全衛生の取組みとエイジフレンドリーガイドライン」

今回のテーマは、当社の安全衛生の取組みと、厚生労働省が公表する、高齢労働者の安全と健康確保のための「エイジフレンドリーガイドライン」(2020年3月)です。当社は、300名超のシニア派遣スタッフが在籍する企業として、エイジフレンドリーガイドラインに沿った安全衛生の取組みを推進します。

【当社の安全衛生の取組み】

【基本方針】

シニアに特化した人材サービス会社として、派遣スタッフが元気で長く働けるように、労働災害予防施策に取り組むとともに、派遣スタッフの健康維持・増進を支援します。

【取組みの内容】

① 衛生委員会の開催

- ・本社、大阪の事業所毎に月1回開催。
- ・派遣先との連携を含め、派遣スタッフの安全就業を図り、労災予防施策等についても協議を行っています。

② 社員の健康管理

- ・定期健康診断(年1回)、夜勤等の特定業務従事者健診(年2回)、ストレスチェック(年1回)実施、メンタルヘルスに関する社外相談窓口の設置など

③ 派遣スタッフの健康増進策の導入

ヘルスビット(株)が開発した健康指標・パーソナルスコア®を導入し、生活習慣の改善や運動習慣を奨励します。

④ 安全衛生教育の実践

入社時及び就業後の派遣スタッフへの安全衛生教育で、特に労災予防、健康支援の充実を図ります。

⑤ 安全衛生NEWSの配信

年4回、これからも安全衛生に関する様々な情報を発信します。

【エイジフレンドリーガイドラインで求められる取組み】

【事業者求められる事項】

高齢労働者の就労状況や業務の内容等の実情に応じて、実現可能な労働災害防止対策に積極的に取り組むよう努める。

- ・安全衛生管理体制の構築
- ・職場環境の改善
- ・高齢労働者の健康や体力の状況の把握とそれに応じた対応
- ・安全衛生教育

【労働者に求められる事項】

- ・自らの身体機能や健康状況を客観的に把握し、健康や体力の維持管理に努める。
- ・日頃から運動を取り入れ、食習慣の改善等により、体力維持と生活習慣の改善に取り組む。



※当社の取組みにご協力をお願いいたします。

【働く高齢者の心身の変化】

参考：高年齢労働者が安全・健康に働ける職場づくり
(中央労働災害防止協会)

バランス感覚(平衡感覚、姿勢のバランス保持)

生理的機能、特に、感覚機能や平衡機能は、早い時期から低下が始まります。
バランス感覚が低下すると、脚立上でふらついたり、大きな荷物を抱えながら歩くことが困難になるなどの問題が出てきます。

筋力(握力・背筋力・脚筋力)、柔軟性

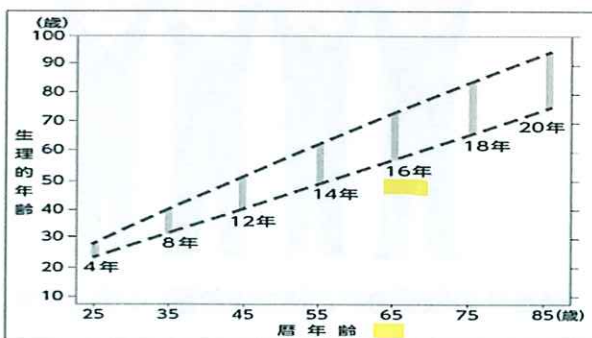
筋力の低下は、脚力で始まり、体の上方へ向かい、手の指先へと進みます。
筋力や柔軟性の低下は、つまづきや転倒のリスクが高まり、ちょっとしたことで無理な動作につながりやすくなります。さらに免疫力が低下し、生活習慣病のリスクも高まります。

疲労回復力

加齢に伴い、疲労回復力が低下します。
疲れにより、安全活動にも悪影響をもたらしますので、高齢者は特に留意が必要です。

中高年期以降は、心身機能の個人差が拡大します。

例えば、歴年齢(実年齢)65歳の人の生理的年齢(身体的年齢)の個人差は、16年にも及ぶといわれます。特に、高齢者は日々の生活習慣や定期的な運動習慣が大切になります。積極的に、健康づくりに取り組みましょう。

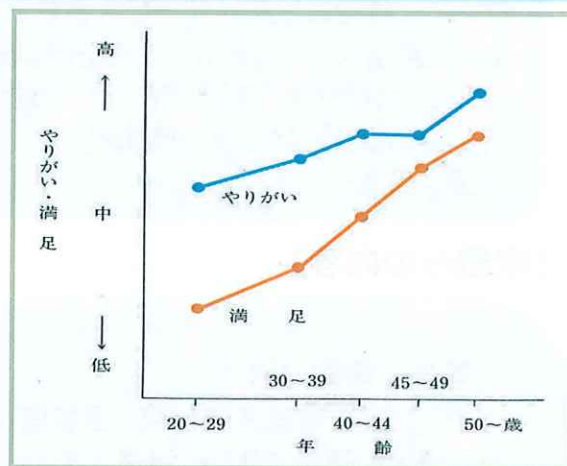


出典：斎藤一、遠藤幸男：高齢者の労働能力（労働科学叢書53）、労働科学研究所、1980から作図

経験によって得た能力(知識・技能)は、長期間使用するほど維持することができます。

高年齢労働者は、これまでの職業人生で様々な経験を積み、豊富な知識・技能と知恵が備わっています。これらは、高年齢労働者の強みであり、仕事を継続することで維持することができます。

加齢により様々な心身機能は低下しますが、一方で、仕事に対するやりがいや満足度は、大きくなるといわれています。

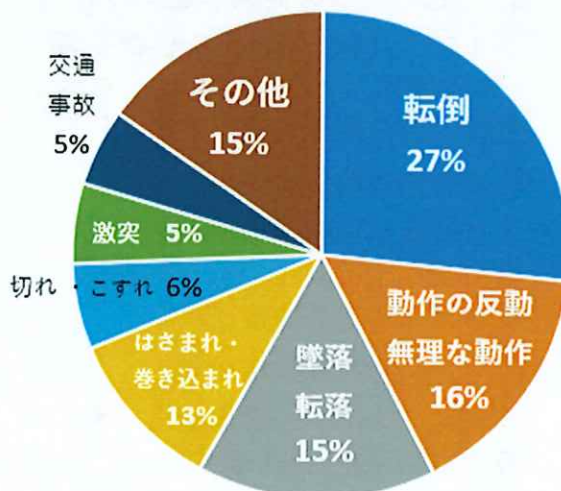


資料出所：池田敏久 中高年齢者の安全

(参考) 労災事故原因

労災事故原因として最も多いのは転倒です。特に高年齢労働者は、転倒、墜落・転落の防止、とっさの対応が取り難くなることなどの留意が必要です。

休業4日以上の方災事故・原因別割合
(全年齢・全産業計)



出所：令和4年労働災害発生状況の分析等(厚労省)